

ひろ

1

2015年 No.338
平成27年1月



新年挨拶	2~4
第16回ミルクフェスティバル	5
コンプライアンス研修行われる	6
不要農機具・車輜等回収処理事業行われる	
農業用廃プラスチック類回収行われる	
「営農計画書」の提出はお早めに	
整備工場技術講習会	7
ツリー点灯式で牛乳消費拡大キャンペーン	
第45回広尾毛がにまつり	8
酪農部会視察研修	9
年金友の会親睦旅行	
豊似給油所イルミネーション点灯	
年金相談会開催	10

まさばママ料理教室開催される	
JAひろお女性部秋期講習会開催	11
JAひろお女性部すみれ会観劇温泉旅行	
JAひろお青年部農業空容器回収行われる	12
JAひろお青年部平成26年度視察研修	
JAひろお青年部平成26年度学習会開催	13
される	
理事会	13~14
郷土色豊かなおせち料理	14
表紙インタビュー・占い	15
ホクレン十勝家畜市場だより	16
教育ローンキャンペーン	17
背表紙（謹賀新年・役員名簿）	18

新年の挨拶



広尾町農業協同組合代表理事組合長

萬亀山正信

輝かしい新春をご家族皆様で迎えられたことと存じ、心からお慶び申し上げます。

また、旧年中は当JAの運営に対しまして特段のご理解とご支援・ご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

昨年は、5月初旬からの小雨と高温による干ばつの影響で一番草及び小麦が前年を若干下回る収量となったものの、7月以降は天候も安定し、飼料用コーンも台風等の影響もなく概ね前年並の収量を確保することができ、馬鈴薯・甜菜などその他の作物についても生育・収穫とも順調に推移し、前年以上の収量を確保することができました。生乳生産は一昨年の猛暑の影響と分

娩時期のずれ込みなどから前半は前年を下回る実績で推移したものの、7月以降は生産者の皆様の飼養管理の徹底もあり堅調に推移し総じて前年を上回る実績を見込んでいるところであります。

家畜生体販売では乳牛・肉牛の市場価格が引き続き高値で推移し前年を上回る実績となり、乳価の引き上げもあつたことから町内における農業生産額は農畜産物合わせて60億円を超える予測となりました。

これもひとえに組合員皆様の営農に取り組み強い意欲と日々の大変なご努力によるものと心から感謝を申し上げますとともに、改めて敬意を表すると

ころであります。

平成26年は農業・JAを取り巻く情勢がめまぐるしく変化した一年であり、対外的には日豪EPAが冷凍牛肉等の段階的な関税引き下げなどの条件で合意され、北海道農業への影響が懸念される中、TPP交渉についても依然厳しい条件が日本に対して突きつけられており、今後とも余談を許さない状況にあります。

国内では、政府が抜本的な農協組織改革を盛り込んだ「規制改革実施計画」を閣議決定し、農協系統組織に対して自己改革を強く求めてきており、JAグループ北海道としても全道での組合員討議を経て「JAグループ北海道改革プラン」を策定し、これらを網羅した全国JAグループとしての自己改革（案）を政府に提出したところであります。政府の考え方との間に隔たりがあるなどのコメントが政府関係者から相次いで出され、今後の協議の行方が懸念されるところであります。

さらには、衆議院の解散によって年末行われた衆議院選挙の結果、与党であった自民・公明両党合わせて前回に続き絶対安定多数を超える議席を獲得したことにより、経済対策「アベノミクス」が加速的に継続されていくことが想定されますが、農業予算のさらなる拡充と個別農家に対する支援策の充実、所得安定対策の実施に向けた取り組みに期待する一方、TPP交渉に関する国会決議の遵守やJAグループとしての役割・機能を十分発揮できる自己改革案の承認に向けた要請活動など、JAグループ北海道と歩調を合わせて取り組んで参りたいと考えております。

混沌とする農業情勢の中、全道各地で営農を中止する生産者が増加しており、将来を見据えた生産基盤の強化や維持のための取り組みが急務となつて

いる現状を踏まえ、当JAにおいても昨年の懇談会において10年後を見据えた「広尾町農業の将来について」をテーマに様々なご意見を頂いたところであります。昨年は予てからの懸念でありましたコントラクター事業について、組合員の皆様のご理解とご協力により当JAが出資する関連会社「ハックス」を設立し、本年の春耕期からの稼働を目指して取り進めているところであり、今後課題となつてくる労働力不足や経営の効率化に対応する有効な組織として、中核的な役割を担って

くれるものと期待しているところであります。

本年は平成28年度から始まる第10次農業振興計画及び農協経営中期計画の策定年であり、各種支援対策を継続しつつ、山積する課題に対応すべく役員一丸となつてスピード感を持つて取り組んで参りますとともに、広尾町農業の将来を見据え、組合員の所得向上を基本とした今後の事業展開や有効な支援対策などについて、組合員の皆様との議論を一層深め、幅広い意見を頂

きながら中期計画策定に向けて取り進めて参りますので、引き続きご理解とご協力をお願い申し上げます。

最後に、本年が天候に恵まれ、災害のない実り多い年でありまして、組合員及びご家族皆様のご健勝とご多幸・ご活躍を心からお祈り申し上げます。新年にあつたつてのご挨拶いたします。

平成27年の年頭にあたり



北海道農業協同組合中央会会長

飛田 稔章

組合員並びにJA役職員の皆様方には、ご健勝にて輝かしい新年を迎えられたものと心よりお慶び申し上げます。さて、昨年の北海道農業は、地域差・個人差があるものの、おおむね順調な作柄となりました。皆様方におかれましては、日々の営農と併せ、地域農業の振興や地域社会の発展に向け、日頃より多大なご尽力をされていることに対して、改めて敬意と感謝を申し上げます次第です。

平成26年は午年（うまどし）でありましたが、農業・JAをとりまく個々の情勢変化に加え、年末には、衆議院

議員選挙が実施されるなど、まさに激動の一年でした。かかる情勢の中、我が国の農業をはじめ国民生活のさまざまな面に大きな影響を及ぼしかねないTPP交渉に関しては、関係国の首脳・閣僚・交渉官等による各種合会並びに交渉が継続的に行われています。

昨年の11月10日に行われた関係国の首脳合会では、結果として大筋合意には至らず合意の目標時期も明示されませんでした。協定の早期妥結に向けた取り組みをさらに進めていくことなどを確認し合った経過にあり、今後とも予断を許さない情勢にあります。国の

かたちを大きく変容させかねない重大な交渉であるにもかかわらず、依然として具体的な情報開示がなされておらず、国民不在のもとでの交渉に大きな不安と憤りを感じざるを得ません。

国会決議の順守とともに我が国の将来に禍根を残すことのないよう、今後とも政府・与党への強力な働きかけを行いつつ、国民世論の形成に向けた取り組みを展開して参ります。

一方、政府は規制改革会議における答申を踏まえ、平成26年6月に「規制改革実施計画」を閣議決定し、農協系統組織に自己改革を求める内容を示しました。その後、JAグループ北海道として全道の組合員に参加いただいたうえで組織討議を実施し、頂いたご意見・ご要望をもとに、「多様な価値観に込める北海道農業」・「時代に即した協同組合への改革」を柱とした「JAグループ北海道改革プラン（実行計画指針）」をとりまとめました。

今後、その内容を踏まえ、必要な環境整備に向け政府・与党に働きかけを行うとともに、組合員の皆様方と力を合わせJAグループとしての機能・役割をより一層発揮し、国民各層の理解醸成をはかりながら、改革プランにもとづく事業展開を積極的に推進してまいります。

世界規模での異常気象の発生、人口増加、新興国の経済情勢の変化などを背景に、国際的な食料の需給事情は不安定な要因を抱えており、先を見据えた中で、食料の安全保障をいかに確立

していくかが問われています。自国の食料は可能な限り自国で賄うべきは、国家が存立していくうえで必要不可欠な取組みであります。我が国の農業の位置づけ・役割を再認識したうえで、農業の持続的発展をはかっていくという国としての基本姿勢のもとで、必要な政策展開なり関係者の自助努力を精力的に進めていくことが重要であります。

併せて、いまや農業は国民の理解と協力なくしては成り立たない産業であり、農業・JAの実態や取組み、農業・農村の多様な魅力を発信し、国民各層の理解醸成につなげていくことが肝要であります。やもすると、経済合理主義のもと、効率性や競争が豊かな暮らしの道しるべになるとの風潮がありますが、それぞれの地域や国の実情、多様な価値観を踏まえ、真に豊かな暮らしを追求し実現していく姿勢が今まさに必要ではないでしょうか。

今年の干支は未年（ひつじどし）です。群れをなす羊は家族の安泰を三示し、いつまでも平和で暮らすことを意味します。改めて家族や農村社会の結びつきを大切に、地域農業・地域社会の共存共栄を目指し、ともに頑張ろうではありませんか。

結びになりますが、本年が天候に恵まれ実り多い年となりますよう、併せて、北海道農業並びにJAグループ北海道の一層の発展を心よりご祈念申し上げます。

第16回 ミルクフェスティバル



10月29日、第16回ミルクフェスティバルが広尾町農村環境改善センターで行われました。

最初に情報提供として繁殖管理の事例を十勝農協連酪農畜産課の廣川雄哉氏より紹介されました。他町村で実際に活用されている管理方法の中で万歩計等のパソコンによる管理や、カレンダー・ホワイトボード等によるアナログ管理などが紹介されました。

次に、榎石井獣医サポートサービス代表取締役の石井三都夫氏が講師を務め、「牛のための繁殖管理技術について」と題して講演が行われ、繁殖管理に対する重要性について説明がありました。特にボディコンディションスコア（BCS）と繁殖成績には関連性があり、BCSの極端な変化により受胎率が低下する結果が出ております。また、目視によるBCSの見方のポイントを確認した上で、日頃から個体の観察を行うことが繁殖改善に繋がることを説明されました。

講演終了後には懇親会が行われ、ミルクーズから提供されたチーズやお菓子、ケーキ等をいただきながら懇親を深めました。

講演会の資料がありますので、必要な方は農業支援課までお問い合わせ下さい。

新年の挨拶



JAひろお女性部部长
古関 悦子

女性部の皆様、並びに組合員、ご家族の皆様、新年明けましておめでとうございます。

昨年は女性部活動に特段のご理解、ご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。私は、一昨年2月に部長、十勝の理事になり、不安と緊張の中で、皆様にご不便をおかけしながらも組み立てた行事を終わらせることができました。今年度も町内外、道内外での研修では勉強させていただきましたことは、私の財産になりました。毎年のように出てくる農業情勢の変化は、現場で働くものには大変苦勞しますが乗り越えていきましょう。「女性が輝く社会」には、社会の理

解が必要ですが、家庭の理解も無くてはなりません。ご協力をお願いします。

女性部の活動は、堅苦しいことばかりではありません。楽しく笑える活動もありますよ。忙しいのは充分わかりませんが、まず一步を歩み出して活動へ参加してみたいかがでしょうか？今年も女性が「いつも元気!!」な姿を見せましょう。

最後に、JAひろおをはじめ、各関係機関の皆様には、今後とも尚一層のご指導、ご支援、ご協力をお願いします。新年の挨拶と致します。

新年あけましておめでとう おめでとうございます



JAひろお青年部部长
渡部 広樹

青年部員、並びに組合員、ご家族、関係機関の皆様、新年明けましておめでとうございます。

昨年中は青年部活動に對しまして特段のご支援、ご指導を賜り厚くお礼申し上げます。

私は、昨年2月の総会での役員改選にて部長に就任し、早くも1年が経とうとしています。はじめは不安でいっぱいでしたが、部員の協力、支えがあったからこそ1年間頑張ってきたことができました。まだまだ未熟者の私ではありますが、皆さんのお力をお借りしながら、もう1年頑張っていきたいと思っております。

さて、昨年青年部では、豊似のお祭りでの出店と除角事業の2つの新しい

活動を行いました。豊似のお祭りでの出店は、役員が中心となり部員の協力があつて無事に終えることができ、今年さらなる工夫とアイデアで広尾の農業をアピールしていきたいと思っております。

除角事業に関しては、急ではありましたが、依頼してくださった皆様に変良くしていただき、「来年も頼む」という声も上がっており、我々青年部のメイン事業の一つとなりそうです。本年も部員一丸となり、本町農業の発展に向けて一層努力して参りたいと考えておりますので、皆様方の更なるご支援、ご指導をお願い申し上げます。新年の挨拶とさせていただきます。

コンプライアンス 研修会行われる

11月15日、第66回農協法公布記念式典終了後、全職員を対象にコンプライアンス研修会が、広尾町農村環境改善センタールで行われました。

この研修会は、毎年、当JA職員が講師となり不祥事を起こさない職場づくり、コンプライアンスに対する意識の高揚を図るためのもので、今年は営農販売課の村上課長が講師となり、実際に起きた不祥事の事例などを交えて研修が行われました。



不要農機具・車輛等 回収処理事業行われる

11月17日～21日の5日間、中山間地域等直接支払交付金事業の集団取組み活動の一環として、不要農機具・車輛等回収処理事業が行われました。

本年の事業実施戸数は32戸で、車輛10台、農機具32台、その他雑品等を回収しました。

不要農機具や車輛などの適正処理は使用者の義務ですので、処理を行う際には、お申し込み下さいますよう宜しくお願い致します。



農業用廃プラスチック類 回収行われる

11月6日～7日、中山間地域等直接支払交付金事業の集団取組活動の一環として、本年度2回目の農業用廃プラスチック類の回収が行われ、集積場に76戸より約80tが回収されました。

農業用廃プラスチック類の処理にあたっては、リサイクルによる処理が基本であり、回収された廃プラスチック類もリサイクル処理により、固形燃料等の再生品に生まれ替わっています。

廃プラスチック類の適正処理は使用者の義務であり、所有地への埋め立てや野焼き、山林・河川への不法投棄は法律で禁止されていますので、適正処理を行う上で毎年2回の回収の際にお持ち下さいますよう宜しくお願い致します。



「営農計画書」の 提出はお早めに

平成27年度の営農にあたって「営農計画書」は経営の指針となるものであり、本年度の目標を決める大切な計画書でありますので、ご家族皆さんで十分相談の上、期限まで提出されませうようお願い申し上げます。

なお、提出期限を過ぎてでも未提出の場合には計画書が提出されるまで組合員動定による資金の提供は出来ませんので宜しくお願い申し上げます。

提出期限

平成27年1月21日(水)

整備工業技術講習会

11月22日、整備工場において技術講習会が行われました。

この講習会は、工場を利用している組合員を対象に機械や自動車の簡単なメンテナンス方法について学び、長く使用していただくために毎年開催しています。

今回は8名が参加し、講師に株式会社イーシーデイ東日本札幌支店の菅氏を招き、オイルのメンテナンス方法、車輛の要求粘度を把握し走行距離、エンジンの状態などで使用するオイルの粘度を変えること、オイルが劣化する前に交換の必要性について説明を受けました。

近年、省燃費が主流となり、新規格として0W16ができました。環境問題により、排気ガス規制の対策として省燃費型車輛の普及に伴い、低粘度のオイルを要求されるようになった中、正しいオイルの使用方法やトラブル回避等を学び、大変有意義な講習会になりました。



ツリー点灯式で 牛乳消費拡大 キャンペーン

10月25日、大丸山森林公園のツリー点灯式会場で、牛乳消費拡大キャンペーンによる無料配布が行われました。親子連れなど多くの人々が来場し、用意した暖かいコーヒートマトミルク500人分は、時間内に全て配布されました。

ツリー点灯式のセレモニーでは、村瀬優町長のあいさつ後、イルミネーションが点灯され、エレクトーンや町内の保育所、幼稚園の園児によるクリスマスソングなどが披露され、締めくくりには約300発の花火が打ち上げられ大いに盛り上がりました。



第45回 広尾毛がにまつり

牛乳消費拡大運動・ホットミルク配布

12月14日、「広尾毛がにまつり」がシーサイドパーク広尾特設会場にて開催されました。当日は好天に恵まれましたが冷え込みが厳しい中、

また選挙の投票日にもかかわらず朝早くから毛ガニを茹でる直径2メートルの大釜の前にはたくさんの方が並び、9時の開会挨拶のあと一斉に

販売が始まり、お昼過ぎには完売する盛況ぶりでした。

ステージ会場では、豪華な賞品が当たる抽選会や毛ガニの早食い競争、子供向けのお菓子まきなどが行われ、多くの来場者が参加し盛り上がりを見せていました。



また、会場では町内農業生産者が黒毛和牛のハンバーグ・ステーキやほうれん草・白花豆などの野菜類を販売し、当JAでは酪農部の協力もいただき、牛乳消費拡大運動の一環として、ホットミルクやホットコーヒートマトミルク無料配布を行い、雪印メグミルク(株)大樹工場からも牛乳PRも兼ねてクリームシチューの無料で提供され、寒い中でのイベントということもあり大変好評で行列が途絶えることなく、用意した300本の牛乳は全て配布し、牛乳の美味しさを大いにアピールすることができました。



酪農部会視察研修

11月5日、酪農部会による視察研修が幕別町忠類の農事組合法人オーシャンリンク、大樹町の農事組合法人サンエイ牧場にて行われました。

若手酪農家3人で立ち上げた法人で、300頭規模のフリーストール牛舎2棟と、60Pのロータリーパーラー、自動給餌機や餌寄せロボット、バインスクレップを導入し省力化を図っています。



ます。労働力は構成員3人とそれぞれの両親6人、外国人研修生3人を含む計12人で賄っています。構成員の3人はいずれも家族経営の3代目で、牛舎が老朽化しており、何十年も経営を続けていくためには施設投資は避けられない状況にありました。また両親に労働力としていつまでも働いてもらうわけにもいかず、自分たちの将来のため9億円を超える設備投資を決定するに至りました。牧草収穫は忠類農協のコントラに委託し、哺育牛は哺育センター、6ヶ月齢以降は十勝農協連の湧洞牧場に預けており、構成員は搾乳と飼養管理に専念できる体

制を整えています。現在の経産牛頭数は620頭、今年の生産見込みは4,500tを見込んでおり、6,500tの生産を目標としています。今後は地域でのTMRセンター設立の計画もあり、将来的には畜舎の増設を目指しており、今後益々規模拡大が進んでいくものと思われます。

午後からは大樹町の農事組合法人サンエイ牧場を訪れ、バイオガスプラントを視察しました。経産牛約1,000頭、育成牛500頭、計1,500頭の糞尿と合わせて、バルク・ミルクー洗浄水などの雑排水を同時に処理しています。総事業費は4億円で、送電網の整備に2千万円ほどかかったそうです。糞尿の原料槽より固液分離した液を発酵槽へ送り、嫌気性発酵したメタンガスは、ガスエンジンの燃料として発電機を稼働させ、発電量の95%を売却し、牧場で使用する電力は購入しています。発酵プラント立ち



ンジンから発熱される熱で生成される温水は70℃、これを原料の加温に使用したり、パーラーでの温水利用に使用しています。発酵後の消化液は悪臭もなく、良質な肥料となり圃場に還元しています。

今回の視察では、大型農場における課題や取り組みが視察でき有意義な視察となりました。

年金友の会 親睦旅行

10月22～24日泊3日の日程で、年金友の会の親睦旅行が登別・札幌方面で実施されました。

早朝広尾を出発したバスは、支笏湖へと向かい、ピジターセンターを見学した後、昼食をとり水中連絡船に乗りました。前月の台風の影響で、残念ながら湖水が濁り気味で水中を観察することはできませんでしたが、船上から眺める景色は紅葉に彩られ素晴らしいものでした。

1日目の宿は、道内屈指の泉質とゆつたりのんびりくつろげる大浴場が自慢の登別温泉第一滝本館、旅の疲れを癒した後は宴会でおいしい料理とお酒をいただきカラオケで楽しみました。2日目の午前中は、千歳市にある日本血液製剤機構を見学しました。ここでは、皆さんからの善意の献血による血液から血液製剤を製造して各医療機関に供給しています。施設内は衛生管理が行き届いておりとても清潔で、職員の方々の品質維持向上に努めている姿が印象的でした。

午後は札幌へと向かい藻岩山山頂の展望台から札幌市街を眺めました。天気にも恵まれ札幌ドームや札幌競馬場などの名所を気持ちよく見渡すことができました。

夜は、アサヒビール園で農協観光主



催の「食の夕べ in SAPPORO」でカニや羊肉など北海道産の食材を使用した郷土料理や創作料理をいただき、合わせて太鼓やYOSAKOIソーランなどのショーを楽しみました。また、お楽しみ抽選会ではメンバーの中に豪華景品を当てた方が出たことで大いに盛り上がりました。お酒も料理も思う存分いただき大満足の一夜を過ごすことができました。

3日目は、午前中に今年リニューアルされた北広島の三井アウトレットパークでショッピングをして、市内のホテルで昼食を取った後帰路に着きました。

3日間気温はやや低めでしたが、秋晴れの良い天気に恵まれ思い出深い旅行になりました。

豊似給油所イルミネーション点灯

